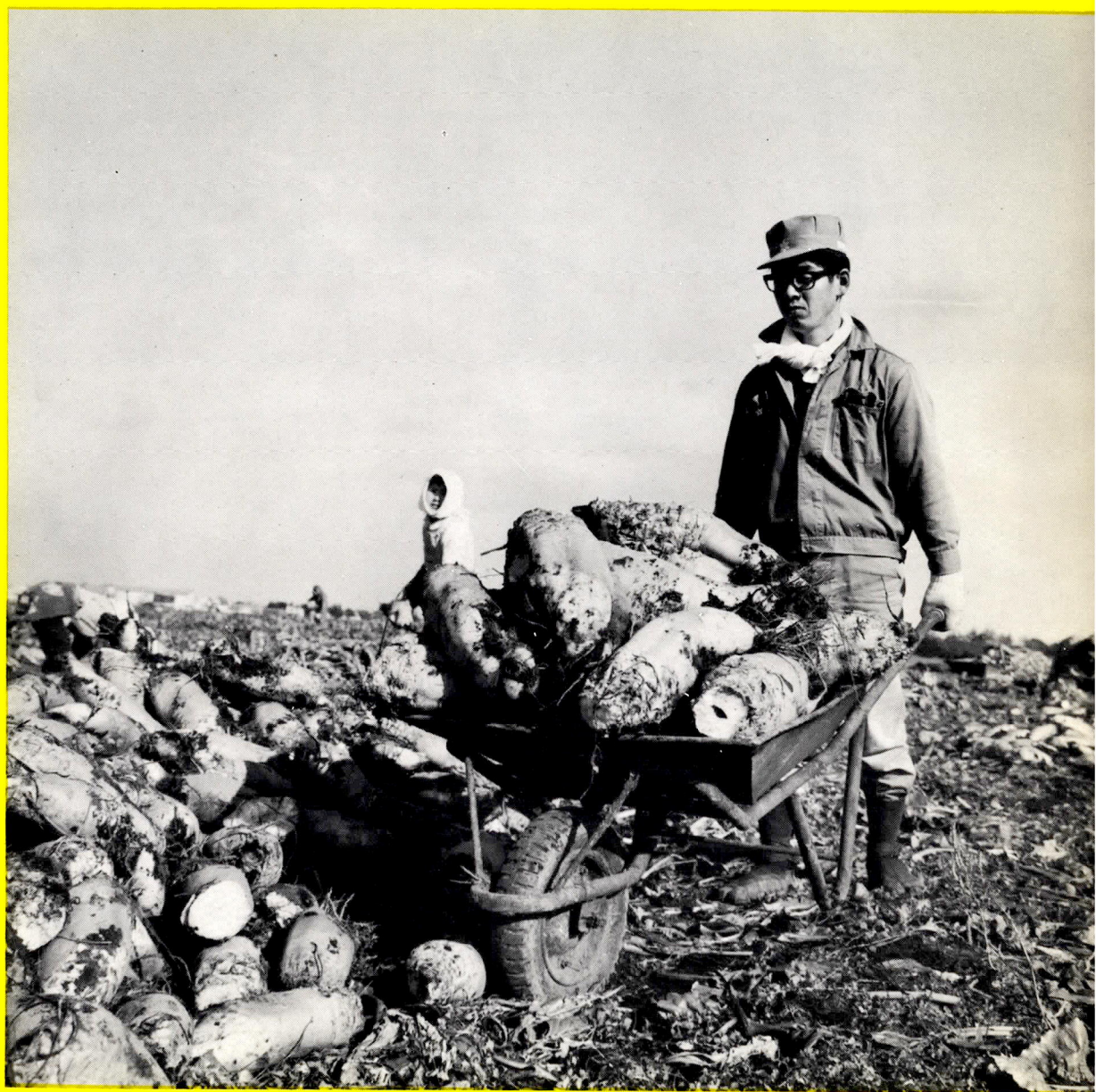


牧草・園藝



ヨーロッパの草地と酪農

道立滝川畜産試験場 佐久間 智 工



① スワレフ（スウェーデン）のチモシー・アカクロローバ混播品種比較試験ほ場 その向こう側の平地には、見渡す限りの麦類の作付けに組み合わされるマメ科牧草の導入が真剣に考えられている。



② スワレフ（スウェーデン）のアカクロローバ品種比較試験の収穫風景

こうした場面でも、機械化が進んでおり、きわめて能率的に調査される。また品種選定の基準は相手イネ科草（イネ科草にとっては相手マメ科草）と良い混生比率を保つことである。



③ ウプサラ農科大学畜産学科の飼料試験畜舎

コンピューターと連動する自動給飼器が用いられ、前日および前前日の乳量に合わせた飼料の給与が自動的に行なわれる。飼料の計算は、可消化蛋白（DCP）とネットエネルギー（Mcal）で示され、生産された飼料の有効な活用が最大の眼目である。



④ デンマークにおける大型酪農家の畜舎内の風景

年間を通じて舎飼いされ、牧草のサマーサイレージまたは青刈り給与されている。単位面積当たりの多収を狙ったペレニアルライグラスの栽培と、徹底的な高品質時収穫が特徴である。乳牛はレッド・デーニッシュ。